

組合員の作品



クラフトでバッグと小物入
みい西支部
谷口 カツ子



絵手紙
あさがお (上)
なすび (左)
あいあい支部
上原 克子



短歌

「戦争はアカンアカン」と声出して老いたる我もデモに加わる

さつき支部 中嶋 順子

マイナンバー聞くだにおぞまし囚われのわが捕虜の番号思い出される

門真東支部 佐々木芳春

寂聴さん九十三歳がマイク持ち平和が好きと声透きとおる

あいあい支部 長野 晃

※皆様の投稿をお待ちしています。(写真・短歌・絵手紙・川柳など)
編集委員会 ☎072-882-5025 (組織部まで)

詩

三井の晩鐘

成田支部 迫田 智代

心を込め
ゆっくりと鐘を打つ
ひとつの音

忘れようとして
忘れられない記憶を
失ったものの大切さを
かけがえのない人との
出逢いを

かたよらず
こだわらず
とらわれず
広く広くもっと広く
我が愛を込め
生きている証しに
時空を渡って行けと
鐘を打つ

詩集「私の旅」より
(※滋賀県大津市)

戦後70年を迎えて

過去を反省し、平和を求め

私は、鳥取県米子市生まれ、小学校6年生には国民学校に改称。その年の12月8日に真珠湾攻撃から太平洋戦争が始まりました。

翌年4月米子工業学校に入学。戦争勝利のために軍事訓練や食糧増産等の勤労奉仕がほとんどで、昭和19年学徒動員令により、3年生(14歳)で広島県呉市の海軍工廠(軍港に隣接)へ学徒動員されました。

戦争が激しさを増すにつれ、私達の寮も攻撃を受け消滅、その跡地で犠牲になった多くの死体が荼毘にふされ、私たちの海軍工廠も爆撃され、私は防空壕へ逃げ込み「危機一髪」で助かりましたが、戦場と同じ恐怖でした。

昭和20年8月6日、広島へ原子爆弾が投下された時は、防空壕掘りのため待機中で、広島から20km離れた呉でも大きな閃光を受けました。8月15日終戦を迎え、寮から8kmを徒歩で超満員列車で広島に到着。その夜は焼け野原で野宿。この時に被爆しました。

翌朝1年ぶりに帰省し学校を卒業。あの戦争は何をもたらしたか?空しい気持ちでいっぱいでした。そして、二度と戦争はしてはいけなく強く自覚しています。年1度の被爆者検診での不安はありますが、退職後現在の寝屋川団地に住んで20余年。地域の「9条の会」代表世話人となり、毎月6・9行動として寝屋川市駅前で「原爆なくせ」「戦争反対」を訴え宣伝活動を続けています。

みい支部 多田 寛